

第55回 大阪府・大阪市合同図書館研究集会 質疑

質疑応答（）内は質問者の所属市町村

中学校部会

（大阪市）

Q：貸出冊数が2022年度1年生は52冊、2023年度2年生は21冊で間違いないか。

A：間違いない。今年度の2年生は、去年の自分たちの貸出冊数の記録より少なくなった。ただ、今年度の3年生は、去年度よりも貸出冊数が増えている。

Q：こんなに伸びているのはすごい。その要因は何か。

A：図書館のレイアウトを変えた。雰囲気を変えた。小さな声でおしゃべりはOKなど、ルールも少し改定した。中1の来館が多く、それに伴い3年生が増えた。図書委員をしたい生徒が多い。図書委員をすると本好きになる生徒が多い。結果、本に興味を持つ人が増えた。

（富田林市）

Q：NIE 活動は生徒の書く活動が増え、とてもいいことだと思う。ただ、スクラップに使う授業をする
と膨大な量の新聞が必要になる。新聞を購入する予算はどこから用意したのか。

A：新聞は7月から NIE プロジェクトチームとして新聞社2社より提供されている。その他、家で新聞をとっている教師に持ってきてもらう。新聞は50部までコピーすることができるので、1クラス分は用意できる。

小学校部会

（大阪市）

Q：情報収集の環境整備の一環として導入した、ポプラ社の電子書籍サブスクリプションサービス「Yomokka!!」とはどのようなサービスか。

A：年間契約で一人2600円。保護者の理解もあり4月より契約している。インターネット環境があれば、携帯、タブレット、家のパソコンなど、どの端末でも見ることができる。ポプラ社だけでなく、いろいろな出版社の読み物なども日々更新されている。今年度は、1年生の「乗り物」調べ、3年生の「スーパーマーケット」「インタビューの仕方」「町たんけん」の調べ学習に利用した。

（大阪市）

Q：今後の課題である「家庭での読書週間の弱さ」の理由は何だと考えられるか。

A：学校では静かに読める環境があるが、家庭ではなかなか難しい。また放課後の習いごとが忙しいなどが考えられる。学校もタブレットの週末持ち帰りなどで、家庭への啓発につなげたい。